

群 教 セ	G15 - 01
	平30.268集
	高-キャリア

平成30年度長期社会体験研修報告書

研修先：群馬ヤクルト販売株式会社

長期社会体験研修員 蛭間 洋子

I 研修内容

1 研修先の概要

群馬ヤクルト販売株式会社（以下、群馬ヤクルト）は、東京本社及び全国各地113社の販売会社から成るヤクルトグループにおいて、群馬県エリア（一部を除く）を担当する販売会社である。「一人でも多くのお客様に『健康と美』をお届けすること」を使命として、12年以上連続で全国1位の販売実績を収めている。県内に前橋本店、出張所2ヶ所、サービスセンター33ヶ所を構え、従業員は900名（うちヤクルトスタッフ650名）を要する。乳製品乳酸菌飲料の販売を主軸とし、清涼飲料・健康食品・化粧品の販売、旅行業及び保険事業も手掛けている。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月～5月】（研修場所：前橋本店、各サービスセンター、店舗）

群馬ヤクルトの企業理念や信条、創始者の価値観などを学んだ。また、体験的・実践的・具体的な内容を多岐にわたって経験した。主な研修内容は次の通りである。

①企業理念・事業方針の理解 ②座学研修(商品知識、健康情報等) ③手づくり弁当持参による健康管理実践 ④体力づくり ⑤対面コミュニケーションのトレーニング ⑥三輪バイク・電気自動車運転練習 ⑦化粧品研修 ⑧SC(サービスセンター)での朝礼参加及び宅配同行 ⑨ルート同行(トラック同乗) ⑩店頭販売実践 ⑪イベント出店の手伝い(日本化薬) ⑫表彰式典の運営補助 ⑬ヤクルトスタッフ新規採用(訪問)活動 ⑭健康講座の準備 ⑮合宿研修 ⑯食育劇運営補助 ⑰新卒採用業務 ⑱VOICE会議 ⑲新世代プロジェクト企画会議参加

(2) 新人ヤクルトスタッフ研修【6月～8月】（研修場所：前橋本店、特別養護老人ホーム）

新人スタッフ（毎月入社）研修の見学及び講義の担当を務めた。交流を通して新人としての不安などを知ることができた。また、特別養護老人ホームでの研修（傾聴ボランティア）を行い、知見を広めた。さらに18ヶ所のサービスセンターを訪問し、朝礼参加や宅配同行を行った。

(3) 新入社員メンター研修【7月】（研修場所：各サービスセンター）

宅配サービス部に配属となった新入社員、2年目及び3年目の若手社員に同行し、普段の業務や日々の思いなどについて話し合うことができた。職域への同行では、異業種の職場も見学した。

(4) サービスセンター研修【9月～10月】（研修場所：玉村サービスセンター）

ヤクルトスタッフの宅配の拠点となるサービスセンターにおいて、スタッフとともに職域への同行や新人採用活動、新規開拓活動等を行った。

(5) イノベーション推進本部研修【11月】（研修場所：前橋本店、各サービスセンター）

運営のサポートに当たる部門での研修を行った。8月と同様の新人研修やその補習、基盤開発部が行う宅配スタッフ使用の新端末導入の手伝いなどを行った。

(6) 広報部研修【12月・1月・3月】（研修場所：前橋本店）

広報部の業務について説明を受け、社内報の記事執筆・制作、HP掲載記事の執筆、ラジオ番組の収録同行、業務手順書の作成、中学校で実施する健康教室への同行等に携わった。

(7) 総務部研修【2月】（研修場所：前橋本店）

総務部の業務について説明を受け、総務部内の各課（総務課・労務法務課・財務会計課・保険課）の業務に携わった。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

高校生に向けて、職業観、勤労観の醸成を図るためのリーフレットを作成した。「小さな発見から夢の実現へ」というテーマで、群馬ヤクルトでの研修を通して学んだことを基に、日々の「小さな発見」から始まる「小さな成長」が、「夢の実現」につながるとの趣旨を伝えることをねらいとした。

(2) 実践の概要（太田フレックス高等学校）

授業実践

題材名 「小さな発見 – 自己有用感を養うきっかけづくり」（特別活動）

対象 I・II部卒業ゼミ所属 75名

本授業では「自己肯定感」を社会性と結び付け、他者の存在があってこそ生じる「自己有用感」を高めるきっかけづくりの活動を行った。生徒個々の過去の体験（人から親切にされた経験、自分が親切にした経験など）を事前アンケートで振り返らせ、体験と感情を共有するペアワークを通し、「誰かの役に立つことができる自分」に気付かせ、「人の役に立つことがうれしい」という感覚を喚起させた。

校内研修

題材名 「長期社会体験研修 1年間の研修のまとめ（報告）」

対象 所属校職員 40名

職員に向けて、企業体験とそこでの学びを紹介・報告した。質疑応答も交えて、学校と企業との違いや、今後、学校現場で生かせる企業研修の内容を共有した。

II 研修成果

1 企業体験について

社会貢献と営利活動を相反しない形で実現させる企業努力を学ぶことができた。また、上に立つ立場の方々が、どのように人の意欲をかき立て、導いていくかということを経験での様々な経験を通して学んだ。どのような職業、業務でも人と人とのつながりで仕事は成り立っており、組織としての学校、教育機関も、こうした意味では一般企業と同じ「組織」なのだと実感することができた。

2 教育現場について

一般社会の中での学校、教育機関の在り方について相対化して考えることができるようになった。また、教員としての専門性や生徒との関わりについても、自分が積み上げてきた事柄やこれから更に研さんしたい事柄を再認識することができた。時事や経済など広く社会の動きにアンテナを張って、生徒と向き合っていくことが重要だと感じる。

III まとめ

これまでにあまり接することのなかった分野の仕事や人に触れて、たくさんの「初めて」を経験することができた。自分にとって未知の事柄に触れたり、それぞれの職業種に根ざす異なる価値体系を学んだりする貴重な機会を得ることとなった。今回の研修を基に、社会人として、教員として、より説得力のあるキャリア教育を高校生に向けて行っていきたい。

また、時代の変化を読み、それに対応していく企業の革新の精神は、これからの教育現場にも求められているものである。社会の動きや教育の本質を踏まえながら、生徒にとって、そしてそこで働く教職員にとっても、学校がよりよい場所になるよう貢献していきたい。

（担当指導主事 相京 貴志）